

KSK 支ちのゆり

第5号

発行日 1994年1月16日

編集人 横浜市民グループホーム連絡会

横浜市市中区本牧清坂10本牧生活の案内

TEL 045(623)5318 FAX 045(623)5319

昭和51年12月22日第3種郵便物認可

KSK 増刊通巻985号 (毎月4回・15・20・25日発行)

自分たちで決める

グループホームやまゆり
運営委員会事務局長 上野 敬子

グループホーム連絡会の入居者部会は、はじまって二年目になります。一、二カ月に一回集まって「入居者部会で何をやるか」「新年会に何をやるか」「日帰りレクリエーションはどこに行くか」などを決めます。人数は十人前後でそれに援助者が四、五人で司会者は入居者です。

私も何回かボランティアで行きましたが、正直のところはじめは話し合いなんて無理ではないかと思いましたが、様々な障害、それも重い障害を持った人たちも多いので、ことばでは通じあえないのではないかと思ったりからです。自分から進んで意見の言える人はごくわずか。皆黙ってしまっただけに進まなくなったり、緊張して何を聞かれても「わからない」と言うばかりだったり……。

それが回を重ねるにしたがってお互いに顔見知りになり、親しくなってくるにつれて少しずつ変化が出てきました。一人一人に聞いていくと「プール」だとか「水族館」とかそれぞれの意見が出てくるようになり、何とか決まっていくなりました。

もちろん援助や助言は必要です。たとえば質問や会話の意味をその人にわかることばで説明しなす。イエス、ノーで答えられるように質問を変えて指で合図をしてもらう。写真やイラストを使ってイメージできるようにす

る。他の人が聞き取りにくいことを繰り返す。文字盤で指してもらってそれを読む等です。

昨年の新年会は、入居者部会で決まったカラオケ、ゲーム、ディスコ、プール、バレーボール、オリエンテーリング、話し合い等の中から、入居者一人一人が自分の参加したいものを選んで参加しました。これまでだれかが企画したものに連れて行ってもらうだけだった人たちが、自分たちの希望が通って実現したことでまた意見を言うと思うようになりました。また今までは出たくないと言っていた人たちも楽しみにして参加するようになり、だんだん活発になってきました。

日帰りレクリエーションも八景島シーパラダイスに決まり、どんなグループに分かれるかが話し合われました。その結果、グループホーム毎ではなく、やりたいことが同じ人でグループを作るようになりました。今年の新年会は「生バンドによるディスコ」という意見が通ったので、さぞにぎやかなものになるでしょう。

私をはじめ無理だと思ったことは、全くまちがいでした。どんな障害があってもしたいこと、したくないことはあるわけです。その意志を聞きだす工夫さえすれば、話し合いはできるのです。入居者部会に出る度にたくさんのお話を学ぶことができてしあわせです。まだよくやく話し合いの形になってきたところですが、メンバーも援助者も経験を積みだんだん多くのことを自分たちで話し合っただけで決められるようになるでしょう。

徳島・若竹通勤寮の試み

— 重い障害をもった人の結婚生活を支える —

八月七日土曜日の早朝、新幹線
のぞみで四国、徳島に向かいまし
た。めざす若竹通勤寮は徳島空港
のすぐ近く、松茂町というところ
にあるのですが、飛行機の予約が
とれず、のぞみで大阪に出て大阪
港から船に乗って鳴門から四国入
りすることになったのです。

午後二時頃若竹通勤寮に到着。
地域支援ワーカーとして寮で働い
ている河野和代さんが出迎えてく
ださいました。寮の中は土曜の午
後ということもあって、出かけて
いる人が多く静かでした。寮の中
を案内していただいた後、若竹
通勤寮のとりくみと河野さんの仕
事である地域支援についていろい
ろとお話をうかがいました。
若竹通勤寮には就職している知
の障害者が現在三十名います。食

事の用意（弁当作りも含む）は
当番で、洗濯は自分で、通勤寮
にいる間に生活する力も培われま
す。

このような寮生活を経験する中
から結婚、あるいはグループポー
ムでの生活にと多くの人たちが単
立っていきます。通勤寮ができて
九年経った現在、この地域の中に
四ヶ所のグループホームと十組の
結婚して独立した暮らしを営んで
いる人がいます。

通勤寮を出て地域で生活してい
る人たちの支援も通勤寮が行って
います。その内容は職場との関係、
日常生活の相談、財産管理、生活
費についての助言、献立、買物の
助言、医療面の相談、性の問題、
育児、諸手続き、住居の相談、地
域との関わり等、必要なことすべ

てにわたっています。

さらにグループホームについて
は国の制度を使ったもので、各ホ
ム一名の世話人さん（計四名）と
四グループホームをフォローする
フリーの世話人さん二名が生活の
援助をしています。

いろいろとお話をうかがった後、
いくつかのグループホームを訪問
しました。その中でも非常にユニ
クで今後の参考になると思われる
第四若竹ホームについてレポート
します。第四若竹ホームは二組の
新婚カップルの入居しているグル
ープホームです。県営住宅の中で階
も異なるふたつの部屋が確保され
ており、それぞれ独立した生活が
営まれています。

毎朝六時から七時半、午後三時
半から六時に世話人さんが来て
食事、家事の援助をします。多く
の援助を必要とするAさん夫婦の
援助を中心に、Bさん夫婦に対し
てはできるだけ二人でやってみて
うまくいかないところをサポート

するようにしているとお話でし
た。第四若竹ホームにおじゃま
して重い障害をもった人が一緒に
なりたいたいという思いを実現して、
誇らしげに初々しく生活している
様子などが何とも感動的でした。

重い障害を持った人が多い横浜
のA型グループホームにとっても、
このような形のグループホームを
考えていけば入居者の結婚を實現
することも夢ではないと思えまし
た。

また公営住宅をグループホーム



として使用できることになって、ずいぶんグループホームが作りやすくなっていると感じました。神奈川県、横浜市においてこの方法を導入してほしいものです。最後に今後の課題を河野さんに

横浜市グループホーム連絡会様

いつも「まちの中で」を送っていただきありがとうございます。いつも楽しく読ませていただいております。ただ一つだけ気になることがあるのです。すべての漢字にかながふられているのには、何か理由があるのでしょうか？あまりビッシリとかながふられていると、読みにくいのです。読んでいてしんどくなります。かなをふるのはむずかしい漢字だけにしたらどうでしょうか。すっきりすると思います。

お聞きしました。「徳島県には通勤寮はここだけしかなく、県内から障害者が集ってくることになり。将来のことを考えるとこの地域に障害者が集中することとなり、限界があると感じています。

前略

グループホーム連絡会を日頃よりご支援いただき、ありがとうございます。また、このたびは会報「まちの中で」をお読みいただき、大変重要なご意見をお寄せ下さいましたことを感謝申し上げます。

かなをふるのは何のため？

— 読者からのお便りに答えて —

さてご質問についてですが、私たちの連絡会に所属するグループホームには、障害の種類も程度もさまざまなたちが、いろいろな思いを持って暮らしています。

「まちの中で」を発刊するにあたって、この会報はグループホームで暮らしている人たちの様子や

地域単位の支援センターを作っていろいろな地域で生活できるようにしていくことが今後必要になってくると思います。」とのこと。障害者が地域で生活するということと、施設の役割を考える上でこ

気持ちを多くの人々に発信するものにしたいたいと考え、編集委員の中にも入居者が加わることになりました。その中には知的障害をもっている漢字が苦手な人もいます。「漢字が読めない。私も会報が読みたい」という発言から、漢字に

かなをふるることになったのです。グループホームに入居している人たちの多くは知的障害をもっている、漢字の読み書きやむずかしい表現が苦手です。そのため、これだけ多くの情報があふれる社会

にいても必要な情報が彼らのもとには届かず、自分のことを判断し

のお話しは重要な内容を含んでいると感じました。得ることの多い一日を過ごさせていただきましたことに感謝いたします。

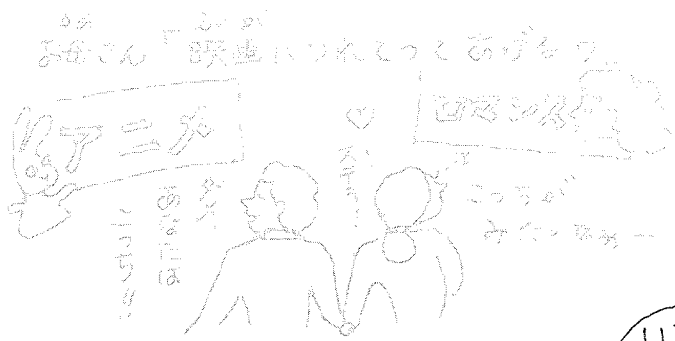
(生活の家・室津茂美)

たり決定したりする時に、大変な不利益をこうむっているのです。このような状況にあって、彼らにいろいろな情報を、その内容を変えることなくわかりやすく伝えることは、グループホーム連絡会の重要な役割だと思えます。漢字にかなをふるだけでなく、わかりやすい文章やことばづかい、紙面構成の工夫など、読みやすくしようとして手さぐりを行っています。

まだまだ未熟ですので、読みにくいところもあるかもしれませんが、知的障害をもった人がわかる会報作りを原則に、読みやすい「まちの中で」をめざします。どうぞよろしく。

横浜市グループホーム連絡会

今の外出 ① 親と



- 親や家族は
 - 心遣いが先にあって、冒険させてくれない。
 - ほかなが 大人あつかいしてもらえない。
 - 親の方でも都合や体調のよしあしで、希望にそってやれないことも多い。

知的障害をもつ人たちに ガイドヘルパー制度

ができたなら……

外出の主人公はわたし!

地域でのくらしが
もっとひろがる、楽しくなる

いきたいところへ
いくことを
援助して
くれる人

今の外出 ② グループで



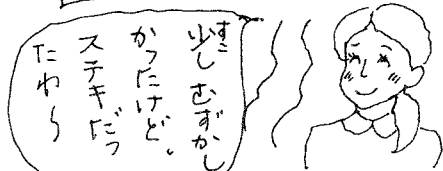
ガイドヘルパーさんと だとい

ほんといきたいところに いける

ガイドヘルパーさんとだとい

ロマンス

希望がかなって



ステキに
たのしみ
たのしみ

ひとまわり
おび
大きく
なつたみたい

ショッピング

好きなところで
好きなものを買う

コンサート

ずっと、いきたかったんだ

カラオケ

みんなとじゃ
ほずかしいけど
ひとりだといいな

もちろん 自らのため、用で

銀行・ゆうびん局・病院・役所
会合・などにも……



ハイキング
山登り

外食

スポーツクラブ

すし正
欧風レストラン

大阪市の場合 — ゆうゆう作業所(たびだち地域センター ゆうゆう) 香山さんにきく

☆ 93年2月に制度化しました。

☆ 通所にも利用されますが、主として、やはり、土・日の余暇利用が多いですね。

☆ ヘルパーの負担が重要です。私たちはヘルパーの育成もかねながら活動しています。

☆ ガイドヘルパー制度はグループホームや作業所と両輪をなして、地域での障害者の社会参加と

自立生活を援助していくものだから、ぜひ充実させたいですね。

ほかなが人とのつきあひがにが手な
人が、波長のあうヘルパーさん
とあって、心が開けてきた例
もあるんですよ



シリーズ
まちの中で
—まちの人たちとのページ—



根岸駅とグループホーム下宿屋とのあいだにあるお好み焼屋さん「コロンス」は、下宿屋の人たちがよく顔を出すお店です。お店の中にはヨットの写真がいっぱい。ニュージーランドへよく行くとのこと。ご主人にお話を伺いました。

Q. 時々下宿屋のみんなでここを利用させてもらっていますが、どうですか？

A. どんどん来てください。ああいう人たちは同じところにじっとしてはいかんと思うんですよ。

Q. ここに電動車イスの人(小林さん)がよく来てますよね。

A. あの人大好き！冗談もよくいうし、話しておもしろいね。何でも話しますよ。

あの人に「どこかで働いているの？」と聞いたら、「こんな体ではどこも雇ってくれないよ。行政から金とってやっている」っていったけど、働くところはないんですか？

Q. 彼は口が達者なので行政や仲間との話し合いなんかに出て行って、自分たちの立場や考えを話したりしているんです。よく出かけて行きますよ、ホント。

A. ああ、障害があっても口があればしゃべれば、口を生かしていけばいいよね。ぼくは思うんだけど、人間必ずどこかに秀でたところがあって、それで生きていけるようになってる。それを認めていくかどうかということね。そういうところでお互い対等な関係なんだということが基本だね。

障害があるからということで遠慮してはイカンと思うよ。ビシッと言うことは言える関係にならないとね。遠慮しだすとやってもらおう方も「やってもらっているんだから…」と思ってしまい、もうそれ以上の関係ができなくなるでしょう。そりゃ、つまらんねえ。

ぼくはボランティアっていうのは、いろんな人がいた方がいいと思うんですよ。学校で福祉を勉強してきたような人ばかりじゃなくてね。普通にいろんな人がいた方がいいな。

今度カラオケがはまりました。2時から5時くらいまでならパーティもできるから、みんな来てくださいよ。

ひとりごと

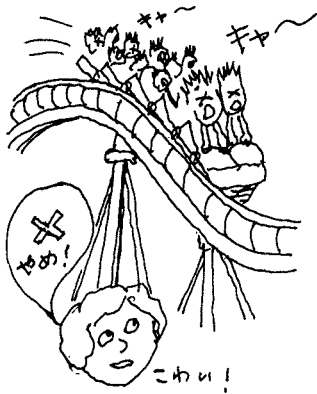
私たちの住んでいるホームには、「せびーグループホームの見学を」と、いろいろな人が来る。

親や福祉関係の団体・これからグループホームをつくりたいと考えている人たち等。

その都度、入居者・職員はできるだけ希望にそえるようにスライドで生活の様子を紹介したり、おはなしを聞いたり、色々気を使う。それなのに時に私たちのことを無視した強引な見学者に行きあった時は、いい加減ハラがたつ。

ここは、私たちの生活の場所。何のことわりもなく個人の部屋で写真をとったり、一日の中で一番くつろげる夜や週末の時間が見学者との相手が終わってしまう時など、「ここは私たちの『城』」なんだから！とグチの一つや二つ言いたくなる。グループホームは個人々々の家。そこを見学する時は、是非他人の家を訪問する時のマナーを守ってほしい。

(本牧生活の家 西岡)



かいものをとした。
山川さんとおまんじゅうごだった。
たのしかった。
水族館もよかった。たのしかった。
のりものはこわいからのらなかつた。
たのしかった。
やまゆり、松永弘子

おさかなみた。
村山さんと

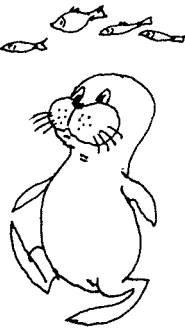
おうまと ふねと コップにのった。

おもしろかった。

おにいさんと、おねえさんと

おもしろかった。

やまゆり 岩崎まゆみ



日帰りレクリエーション
八景島シーパラダイス

1994. 11. 21

去る十一月二十一日(日)、グループホーム連絡会主催の日帰りレクリエーションが行なわれ、八景島・シーパラダイスで思いの一日を過ごしました。やまゆりの皆さんは、今回のシーパラダイスでの一日を、はじめてボランティアさんと一緒に楽しみました。皆さんの感想はどうだったでしょうか？

八景島・シーパラダイスの一日

山根治子

十一月二十日(土) きょうは雨。皆、「あすの遠足には晴れるといいネ。」「みんなで乗り物、乗れるかな？」と、願っている。テール坊主作った。

十一月二十一日(日) 雨がふって

いて、残念ながら願いは届かなかった。「きょうは雨だから、来る人は少ないと思うよ」と言い、車で八景島船着き場駐車場についてみたら、すごい人で一杯だった。

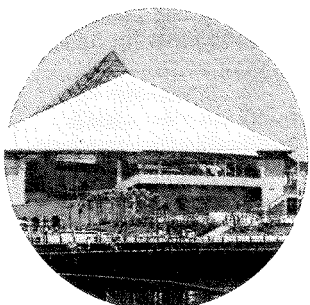
歩きはじめたら、急に天気になり、さっきの雨はウソのように晴れてしまった。「あれは皆で作ったテール坊主のおかげだね?」と言って、みんな、それぞれ乗りたい乗り物と買い物に楽しい一日を過ごした。

私が一番楽しかったのは、イルカとアザラシのショー。アザラシとぬいぐるみのシー太君とお姉さ

ん。アザラシ君がシー太君にあきれかえって、そっぽを向いたこととか、おたがいにだきっこしたりしたこと。そして最後のアザラシ君とシー太君のボールとり。アザラシ君は鼻でボールをとったのに、シー太君は頭に乘せて鼻でとったように見せかけたたん、頭をふっても落ちない所が工夫されているのがおもしろかった。

あと残念に思うことは、昼食や買い物はゆっくりできる時間がなかったこと。(アー、しんど...) あとの人は、もっといろいろな乗り物に乗りたかったとのこと。

ホームに帰ってから、夜みんなでシーパラダイスに行つて楽しかったと話した。



協カ会員募集!

まちの中でくらしている障害者の姿や
声をお届けする機関紙「まちの中で」を
発行しつづけるためにご支援をお願いします。

会費(年) 1口 2000円

振替… 横浜 8-73608

横浜市グループホーム連絡会

☆協カ会員になっていただいた方には
機関紙をお送りいたします。

基金づくりにご協力を!

グループホーム運営支援基金のために
みなさまのお手元でねびっている未使用の
テレフォンカード、オレンジカード、ビニ券
商品券などのご寄付をお願いします。

送り先・横浜市グループホーム連絡会
事務局

〒231 横浜市中区本牧満坂10

本牧生活の家 045-623-5318

ありがとうございました (敬称略 川原不同)

『寄付』 菊地貞子、深野博子、秋山竜二、郷間美隆、上野敬子、室津滋樹、石渡和美、
「ホパイ」一同、玉井きみ江、『テレフォンカード』(12/31まで) 今井知子、高橋章友、袋瀬元恵、
市原かね子、西美枝子、加藤文子、大島中学生徒会、熊谷博子、沢本とし子、伊東優子、
横浜国立大学工学部 建設学科都市計画研究室、浅井秀彦、田中文夫、根菜正博、林 純子、
上野敬子、藤尾孝枝、玉井きみ江、小川千代、岩崎(やまゆり)、グループホーム やまゆり、

『協カ会員』 児玉英隆、松岡秀樹、福田進、松本久美子、市川まゆみ、岩崎賢江、小沢洋子、
大久保規矩夫、中野敏子、藤尾孝枝、北野翔子、外山弘子、青木和雄、荒川綾子、猪又久、錦戸糸子、
南馨、本田祐子、奥本民代、矢沢澄子、石田淳子、仁井直人、早川康弼、早川美佐、原田南海子、
宮武都己子、上野隆雄、郷間美隆、秋山竜二、深野博子、長谷川徹、雨宮スエ子、岩崎和子、
小川千代、永田由美子、加藤恵美子、森下博子、本多敬子、宮坂栄子、滝澤久美子、田中由美子、
大石和貴子、菊地貞子、県立保土ヶ谷養護学校小中学部、県立保土ヶ谷養護学校高等部、
福祉作業所パティスリーもくせい、S.E.センター 樽町、(株)地域生活情報センター、
生活ホームりんご村、ダンボ親の会、

編集後記 世の中が混乱と不安定のままに、新しい年を迎え
ました。でも自分らしい生き方を求めて動き出した障害者の自
立の流れを、もうたれも止めることはできません。それはむしろ
社会全体をいい方向に導く力になるはずです。今年もよろしく。

発行人 神奈川県身体障害者団体定期刊行物協会
横浜市港北区鳥山町1752
横浜ラポール3F
編集人 横浜市グループホーム連絡会
横浜市中区本牧満坂10本牧生活の家
TEL 045(623)5318
FAX 045(623)5319
郵便振込番号 横浜 8-73608
名称 横浜市グループホーム連絡会
編集責任者 室津 滋樹
定 価 100円